

# みんなのひろば

ビープル PEOPLE Vol.42 匠の人



しょうご 勝股省吾さん (82歳) 堀ノ内

ガレージにズラリと並ぶ発動機。勝股さんは八日市場発動機保存会の一員として、発動機を修理・保存しています。65歳で自動車の修理業を引退し、今は趣味で発動機を修理する勝股さん。「動き出し

ので、現在はかなり希少とのこと。「譲り受けたときには部品が無くなっていました。当時のねじは、現在の市販品と規格が異なるため、業者への特注品か自作品で対応し、修理を終えるまで3年ほどか

## 文化財として残していきたい

たときの音がたまらない」と話しながら、「男のロマンです」と照れ笑います。

勝股さんが最近修理したのは、昭和7年製の15馬力の発動機(＝写真)。豊和地区の製材所で当時使われていたも

かりました」と話します。

「コロナ禍が落ち着けば、発動機の運転会をまた開催したい」と話す勝股さん。「昭和の時代の文化財として、発動機を次の時代にも残していきたい」と語りました。

みんなみてみて!!

## アートギャラリー



保育園の畑で採れた野菜を見ながら作ったよ。野菜と同じ色のチラシを自分で選んで、ちぎって貼っていくのが楽しかったな。

匠瑛保育園

江波戸

あかり 彩ちゃん



八日市場小学校6年  
細田 廉斗さん



雲の中に浮かぶ富士山を墨で描きました。墨の濃淡や線のかすれなどで作品にうまく奥行きを持たせることができました。



作品名は「ゆかいなヒラメ」。色の配置で作品に暖かさを、あえて不規則な形で分割することで柔らかさを出しました。



野栄中学校2年  
及川 舜平さん



# タイハイ 初優勝 弓道部

タイハイ株式会社の弓道部チームが、6月11日・12日に開催された第69回全日本勤労者弓道選手権大会に出場し、見事、初優勝を果たしました。

同大会は、都道府県代表の企業・官公庁チームが一堂に会する全国大会。タイハイ弓道部チームは、24射中18射的中させ、予選を4位で通過し、決勝トーナメントに進出。決勝トーナメントでは、接戦を勝ち進み、前回の決勝で敗れたホンダ埼玉を迎えた決勝戦では、12射中8射的中させ、前回のリベンジを果たしました。

チームの皆さんに、優勝の感想などを伺いました。



## 萩野 由唯さん

監督。

25歳、弓道歴5年。東京都出身。



### 精神面のサポートを

ほとんど経験も実力もない私が、監督として何ができるのか、悩んだ時期もありました。そんな時に気付いたのは、みんな弓道が好きで、楽しんで引いているということでした。みんながいつも通り自分らしく大会に臨み、楽しんで終わられるように、精神面・雰囲気づくりの面でサポートに徹しました。

大会では、それぞれが皆中※を出したり、互いにカバーしたりして勝ち進み、最高の笑顔で終わられたことを本当にうれしく思います。

## 齋藤 健夫さん

参段

二の立（2番目に矢を射る人）。

34歳、弓道歴19年。埼玉県出身。



### さらなる高みを目指して

チームメイトだけではなく、弓友や応援してくれた人がいたからこそたどり着くことができた「優勝」でした。その出会いに心から感謝しています。

試合では、立ち入ってから迷いや不安がなく、自分の射に集中し、一つ一つの動作を確認しながら引けたことが今回の結果につながったと思います。

一方、勝負矢を中て急ぎ会※が不安定のまま離し、外してしまうこともありました。そこは自分の弱さとして受け止め、今まで以上に意識して練習や試合に臨んでいきたいです。

優勝は頂上ではなく、さらなる高みを見せてくれたものでした。これからも挑戦者として射を磨き、さらなる高みを目指していきます。

## 平山 藍果さん

四段

一の立（最初に矢を射る人）。

24歳、弓道歴10年。匠瑳市出身。



### 周囲からの言葉が支えに

私にとっては人生初めての全国大会でした。個人的な結果としては、残念※と皆中の両方が出た苦いものになりました。しかし“ここだ！”という勝負どころで皆中が出せたことは非常にうれしく思います。

私のメンタルを支えてくれたのは、支部の先生や梶山さんなど周囲からの言葉でした。その言葉に折れそうな心は何度も救われ、それが皆中につながりました。

この4人で勝ち取った優勝を心の底からうれしく思います。

## 梶山 裕介さん

錬士六段

三の立（最後に矢を射る人）。

39歳、弓道歴23年。匠瑳市出身。



### 日本一のチームに

高校生の頃から憧れ続けた「日本一」。夢がかないました。

準優勝した3年前の大会後、メンバーが入れ替わり、第二期チームとして再出発しました。そして個々がさまざまな課題と向き合い、乗り越えてきました。

自分たちの「弱さ」や「もろさ」を自覚することで、「どんな場面でも目の前の一射に集中」に徹することができ、今大会の優勝につながったと思います。一緒に戦い抜いた仲間の3人を、心から誇りに思います。

今後の目標は、「日本一のチームになること」です。すべてを凝縮しての、最高目標です。現メンバー各々がもっと「強く」なり、さらに新たな仲間も増やし、もう一度、日本一を決める舞台に挑戦したいです。

※皆中…矢がすべての的に当たること 残念…矢が1本も的に当たらないこと  
会…矢を十分引いた状態のこと